

花の美術館だより

FLORAL MUSEUM NEWS

特集 ● 花のある暮らし
季節ごとのお楽しみ、
前庭模様花壇をご案内

表紙写真 ● 使用材料
チューリップ、ヨロイフスデュー、ベルフラワー
マーガレット、スカビオサ、フリムラ、他

SPRING

you

季節ごとのお楽しみ、前庭模様花壇をご案内



ガーデニング・レイアウトの参考に...

前庭花壇は、花の美術館の玄関前に広がる縦60m、横60mの花壇です。花壇は大きく2つに分けられ、前半は草花の色や模様を楽しむ花壇、後半はハーブガーデンになっています。そのうち今回は、前半分の模様花壇を紹介します。

この花壇は、4つの花壇で構成されています。

手前の花壇1はいちばん大きな、幾何学的なデザインの花壇です。3つの長方形を少しずつずらして張り付けたような形をしていて、季節ごとに変わる花の種類や配色、模様などのデザインの違いが楽しめます。周辺に張られた緑の芝生が、中の花をいっそう美しく引き立てます。

花壇2は、芝生の中に6つの楕円形の花壇が並んでいます。中央に植えたゴールドクレストが景観に高さのアクセントをつけ、そのまわりの草花が彩りを添えます。

花壇2の右後方の花壇3は、中央に宿根草のユリオプスデージーを使い、縁取りの季節の花とのコントラストが新鮮です。ユリオプスデージーは、秋から春にかけて鮮やかな黄色の花を咲かせ、花の少なくなる季節の花壇を明るく華やかにすると同時に、銀葉もまた花のない夏を涼しげに演出します。



花壇3の左側の花壇4は、春はナノハナ、秋はコスモスというように季節の代表的な花が登場します。ひとつの花を一面に植えているので咲きそろった時の美しさは見事で、複数の花を使った花壇とはひと味違う素晴らしさです。

前庭花壇は花の美術館を訪れた際に、まず始めに目にする花壇です。面積もとても広いので、特に少し離れた位置から、また上から見たときに美しいようなデザインであることと、それぞれの花壇が互いに引き立てあうような模様や配置になるよう気を使っています。



花の配色は花壇の印象をきめる大きな要素です。そのため、同色系でまとめたり反対色を使ってコントラストを出したりと季節ごとに色の組み合わせを変え、花壇の模様が美しく浮き上がるような色の調和を考えています。また、夏は青系の色を多く使い涼しげに、秋は赤などの暖色系の色を使い暖かさを出したりと季節ごとの印象に変化をもたせています。

これからどんなデザインの花壇が登場するか、折々の季節をお楽しみ下さい。



FROM FLOWER COLLEGE
フラワーカレッジから
～花を撮る写真講座～

▶花の撮影7つのポイント

①アングル

斜め上から写すのが基本。ハイアングルは奥行きや群生の様子を表現、ローアングルは空や雲を取り入れたり、ダイナミックな表現ができる。

②画面構成

撮りたいものを引き立たせ、強調するために邪魔な物を写し込まないこと。特に四隅は見落としがちなので注意したい。

③ピント調整

写したいものの中心よりやや手前にピントを合わせる。特に接写の場合は、ピントが命。

④絞り値とボケの量

絞りを絞り込むほどピントの合う範囲が深くなり、開放の状態では浅くなる性質を利用して、ピントの合う範囲とボケの部分を調節して違った面白さを演出。

⑤順光と逆光

順光は花の形や色彩をはっきり写せるが、立体感がなくなりやすい。逆光の場合は、ストロボや反射板を使えばよい。また花曇りや小雨の日にはしっとり写る。晴天の場合はボール紙や自分の体で影を作り、しっとり感を出せばよい。

⑥背景にも気配り

背景の選び方や処理の仕方、主役がいつそう引き立つ。複雑なものやカラフルな背景はボケを利用するなどの工夫を。

⑦露出補正で理想的な色に近づける

花の色を忠実に再現するためには、露出補正が必要。明るいものはプラス（+）補正、暗いものはマイナス（-）補正が目安。

写真を撮る心かけ

- フィルムは新鮮さが命。保存は冷蔵庫で。
- ボディよりもレンズ選びを慎重に。
- 現像の際は、信頼できる写真屋さんを選ぶ。

散歩の途中で、旅先で、ふと見かけた花の可憐さに心を引かれ、カメラを構える——とはいうものの、花のもつ本当の美しさを撮ることはなかなか難しいものです。花の美術館では、花と風景を撮り続ける写真家・高橋扶臣氏を講師に迎え「花を撮る写真講座」を昨年10月に開催。カメラ選びから使い方のコツ、撮影のテクニックなどを実技をまじえて楽しく学びました。ここでは、花の撮影のポイントをご紹介します。

アングル



上からのアングルのため、煩雑な地面の割合が多く、花の風情が表現されていない。花が中央にかたまっている構図も広がり欠ける。



花丈と同じくらいのローアングルで花の表情をとらえている。

画面構成



主役の花を画面中央にもってくるのは、安定感はあるが動きがない。



花を斜めに配した構図により、動きが感じられる。

茎の処理法



引き気味にしたため茎が目立ち、複雑に交差していることが多く、煩雑な画面になりやすい。



近寄ることにより、花そのものを強調。背景もよくボカされ、一輪一輪が愛らし。

参考図書：「もっと上手に花を撮る」高橋扶臣著、講談社刊

みどりの豆知識

ラベンダーの栽培

“ハーブの女王”と呼ばれ、紫色の美しい花と共に、さわやかな香りが大人気のラベンダー——。その香りには、私たちがリラックスさせ、緩やかな眠りに誘う鎮静作用があり、ストレスの多い現代社会で注目されています。

地中海沿岸地域を中心に分布し、数多くの種類がありますが、私たちがよく目にするのは、花が美しく香りがよいものの、やや高温多湿に弱いコモンラベンダー（イングリッシュラベンダー）や先端にウサギの耳のような苞葉があるフレンチラベンダーなどです。花の美術館の前庭には、コモンラベンダーと耐暑性のあるグロッソラベンダー、冬に薄紫色の花が咲くデンターラベンダーが植えられています。



花と緑のまちかど写真コンクール応募作品
中央区 桃井美代子さん

日当たりがよく、アルカリ性でやせた乾燥地を好み、耐寒性があるので常緑で越冬。肥料もあまり与える必要がなく、虫がつきにくいのも特徴です。開花期は6月から9月頃までが中心で、デンタータ種のように冬咲きの種類もあわせると、1年中花壇を香りで楽しませてくれます。

ラベンダーは種子から栽培すると生育が遅く、大きさや花の色形にばらつきがあるため、品種のしっかりした丈夫な苗を求めます。栽培のポイントは、苦手とする高温多湿の時期を上手に乗り切ること。この時期は開花期にもあたるので収穫を兼ねて剪定を行い、風通しをよくしましょう。株が蒸れると、枯らしてしまう原因になります。

収穫後のラベンダーは、ドライフラワーやポプリ、ラベンダースティック、お茶、染色など、多彩に楽しめるのもうれしいところです。

ラベンダーまつり開催!!

6月19日～7月20日

- 特別展「ラベンダーのこんな生かし方」
多目的室にて 6月22日～7月4日
- 植物企画展（ラベンダー&ハーブ）開催
- ラベンダーのフラワーカレッジ開講（要申込み・裏面参照）



はなちゃん

みどりと水辺のつどい

4月27日～4月29日 花の美術館は無料で入館できます。

- 4月29日** **花とクラシックのふれあいコンサート**
12:30～15:30。10:30～12:00は子供音楽教室「初めてのクラシック」(小学校低学年・未就学児童対象)。モネサロン前にて。
- 4月29日** **苗木・鉢物無料配布**
10:30～と14:00～の各回先着200名。
- 4月27日～29日** **草花の販売・朝市(野菜の即売)**
朝市は9:30から、草花の即売は10:00から。
- 4月27日～29日** **ネイチャーブローチの作成講座**
小枝や花でブローチを作ります。10:00～15:00、先着50名、材料費300円。多目的室にて。

企画展示予定(多目的室)

- 3/30～4/11 ステンドグラス展
- 4/13～4/25 押し花アート展
- 4/27～5/9 フラワーデザイン展「童話の世界へ出発！」
- 5/11～5/16 樹脂粘土展「花のハーモニー」
- 5/18～5/23 私の夢が夢を見たIV「99籐、野の蔓、花」展
- 5/25～6/6 花の写真展
- 6/8～6/13 洋ラン展
- 6/15～6/20 フラワーアレンジメント展「花とおしゃべり」
- 6/22～7/4 ラベンダー祭り特別展「ラベンダーのこんな生かし方」
- 7/6～7/18 四季を彩るアメリカンフラワー展
- 7/20～7/25 サボテン・多肉植物展
- 7/27～8/1 花の美術館写真展(写真を公募します。詳しくは要問い合わせ。)
- 8/3～8/15 押し花額絵展

フラワーカレッジ予定表

日程	講座名	講師名	材料費	申込受付期間
5月15日(土)	植物画 ※1	石川美枝子	2000円	4月15日～25日
5月16日(日)	花を撮る写真講座(全3回) ※2	高橋扶臣男	無料	//
5月22日(土)	春の花をバスケットにアレンジ	大沼 直子	2000円	//
6月 5日(日)	手づくり籠を使った初夏のフラワーアレンジメント	白重二三子	2000円	//
6月12日(土)	アートフラワーで大輪のカラーを作る	澤登千代子	2000円	//
6月19日(土)	ブライダルブーケ	本城 保子	3000円	5月15日～25日
6月26日(土)	四季のラベンダーの育て方と管理の仕方	大石福太郎	500円	//
7月 3日(土)	夏のハーブを生かしたイタリア料理	梨子本雅秋	2000円	//
7月 4日(日)	大菊を育てる(福助とダルマ・全7回) ※3	江連 睦夫	2300円	//
7月10日(土)	シルクストールをラベンダーで染める	酒瀬川芳子	2000円	//
7月11日(日)	季節の花を寄せ植えする(夏編)	野村 和子	2000円	//
7月17日(土)	なでしこの壁掛け(アメリカンフラワー)	吉野 幸子	2000円	6月15日～25日
7月24日(土)	貝殻を使ったサマーリース	渡辺 基江	2000円	//
7月31日(土)	夏休み子ども押し花教室(小中学生対象・全2回) ※4	山岸 英子	2000円	//
8月 7日(土)	押し花額絵	松木小夜子	2000円	//

- 場所/花の美術館1F「花工房」
- 時間/※1は10:30～15:00、※2は13:00～16:00、その他は13:00～15:00
- 募集人数/各20名(応募者多数の場合抽選)
- ※2は、5/16・5/23・5/29の3回、全回出席できる方 ※3は、7/4・7/18・8/1・8/22・9/12・10/3・10/30の全7回、全回出席できる方 ※4は、7/31と8/21の両日とも出席できる小・中学生の方

花の美術館のゴールデンウィーク

- 5月2日** **春・花のアレンジメントショー**
フラワーコーディネーターの森由美子さんが、皆様の目の前で花をアレンジしていきます。魔法のようなプロの技をお楽しみください。モネサロン前にて。午前の部11:00～、午後の部14:00～。
- 5月3日** **ワラでミニ花かごを編もう**
花工房にて。参加費無料。受付時間11:00～12:00、13:00～15:00。
- 5月3日** **夏・秋咲き花苗プレゼント**
光庭にて。先着100名(お一人様一鉢限り)。
- 5月4日** **春の花のミニアレンジメント**
花工房にて。材料費500円。受付時間10:00～12:00、13:00～15:00。先着80名。
- 5月5日** **ピーナッツで作るこびとさん**
花工房にて。材料費300円。受付時間10:00～12:00、13:00～15:00。先着100名。
- 5月1日～5日** **フラワーアドベンチャー**
花の名前を当てながら館内を回ります。参加費無料。

アトリウムフラワーガーデン

花の美術館アトリウムでは、季節の花々による室内花壇をご覧いただけます。

- 4月中旬まで**
チューリップ、マーガレットなどの花々が春を飾ります。
- 4月中旬～6月中旬まで**
アジサイ・ユリなど初夏の花々が咲きそろいます。
- 6月中旬～8月末まで**
熱帯の植物たちのトロピカルムードをお楽しみください。



千葉市 花の美術館
FLORAL MUSEUM

- 開館時間◎9:30～16:30
- 休館日◎毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日) および12月29日～1月3日
- 入館料◎大人200円、小・中学生100円
団体割引(30名以上)大人160円、小・中学生80円
年間パスポート 大人1000円、小・中学生500円
(1年間本人に限り何回でも入館できます)
- 交通◎JR総武線「稲毛駅」よりバス利用②番「高浜車庫」または「花の美術館前」下車、JR京葉線「稲毛海岸駅」よりバス利用②番「海浜プール入り口」下車
東関東自動車道「湾岸習志野インター」(東京方面)、「湾岸千葉インター」(成田・木更津方面)から国道357号線経由
- お問い合わせ◎千葉市美浜区高浜7-2-4(稲毛海浜公園内)

TEL 043-277-8776 FAX 043-277-8674